

一億総白痴化とは？

副題：アマチュアがプロフェッショナルの世界に口出しする現実

テレビの創成期に大宅壮一が言った言葉が“一億総白痴化”です。テレビの放送を見てそのように言われたとされています。テレビのように目から入る情報は極めて刺激の強いもので「百聞は一見に如かず」と言われているように簡単に「本当だ！」と信じてしまいます。しかも○▲大学教授とか超一流○大学卒業で弁護士とか肩書を持つ「有識者」の人の発言ともなれば、その「本当だ！」が真実味を増します。でもその「有識者」の発言が自らの専門領域から遠い世界の内容についての発言の場合は注意が必要かもしれません。

例えば

お笑い芸人が人権問題についてコメントする。

政治が専門のニュースキャスターが公害問題についてコメントする。

報道記者が30分の取材から10秒ほどの発言を切り取って取材の「内容」として報道する。

教育評論家と称する人が派遣労働者の期限切れの雇用停止を「けしからん」としてコメントする。

元記者が外交問題についてコメントする。

ジャーナリストと言われる人が新型コロナウイルス対策を論ずる。

このような例で、「大局最適策・大局次善の策」を論じることができているのでしょうか。疑問です。

報道で必要なのは、「事実の伝達」ではないでしょうか。そこに部外者、所謂素人の主観的コメントは邪魔。それ以上に間違った方向へ誘導することにもなりかねません。このような人達は専門領域についていかほどの知識・造詣・深堀ができているのでしょうか。疑問です。誤方向へ誘導した責任は誰がとるのでしょうか。

ある報道の人が「報道は、取材対象者を報道元が伝えたい方向へ扇動し、結果、誘導し、発言を引き出し報道する」と言っていました。残念ながらテレビの報道番組でも扇動を常とし煽っているとも言える事です。

※ 所沢の野菜のダイオキシン報道で誤情報を流し関係農家に多大な被害を与えたが明確な謝罪がない。

オセアニアにあるツバルという島が、温暖化による「海面上昇で沈む!」。事実は地盤沈下でした。

最近では、台湾のワクチンに対する「反日騒動」の報道（実際にはなかった）もそうです。

これらに関して、キャスターやコメンテーター達からは弁明・反省がありません。

例えば新型コロナウイルスに関する報道についてもかなり疑問を感じる場合があります。

感染症専門家は新型コロナウイルスの終息への方策を述べることは良いとして、日本経済の影響については、どれほどの知見・見識を持っているのでしょうか。市民団体の人達は経済や感染症対策についていかほどの知見・見識をもっているのでしょうか。これらの門外漢の意見は不要だと考えます。経済への影響については、経済専門家や経済団体の人達などの経済の専門家達が提言をし、政治家達が論じ、最終的には首相が決めることではないのでしょうか。ここにこそ、全体としての「現状の最適解」があると考えます。

このことが日本を正しい未来へ導くことにつながるのではないかと考えています。

歴史学者はいいます。

コロナで露呈したこと・・・エマニュエルトッド（仏・歴史学者）

人は自分の考え方の範囲で現実を解釈する（悪くすると、衆愚の社会、ポピュリズムの社会）

補足

卑近な例で私事のことですが担当している事業について新聞社の取材を一時間ほど受け、聞かれたことにコメントをしました。その後の新聞記事は、数秒のコメントを前後全て削除して「書かれた」ことがあります。全く意志とは異なる表現になっていました。事後処理に大変困ったことがあります。

その新聞は「朝日新聞」です。これが大新聞社のすることか、と怒りを覚えたことがあります。それ以来掲載原稿をみせてもらえない取材は受けないことにしました。